

お茶の水女子大学大学院・同徳女子大学校大学院ジョイント教育概要

日時 2006年2月6日～12日

場所 韓国・同徳女子大学校（大韓民国・ソウル特別市城北区月谷洞 23-1）

テーマ グローバル時代の日本語教育

1. 本企画の紹介

お茶の水女子大学は平成 17 年度、「魅力ある大学院教育」イニシアティブの人社系プログラムに採択された。本学は大学院教育の使命を「女性リーダーの育成」とし、そのための教育研究の特徴を「学際性・国際性・将来性」におき、具体的には、「社会的ニーズを視野に入れ」ながら、「基幹分野の充実、先端・創成分野の強化」をその方針としている。本プログラムのタイトルは、「〈対話〉と〈深化〉の次世代女性リーダーの育成」であるが、その目的は、高度の学術能力を有する次世代の女性を、責任をもって教育・育成し、国内はもとより、国際社会に送り出すことを明確に掲げ、大学院教育をさらに充実させることにある。日本の大学、とくに大学院の教育が、さらなる拡充をめざして大きく変わろうとしている昨今の動向のなかで、この大学院教育プログラムが採択されたことは、大変意義深いことである。

さて、本プログラムがイニシアティブとしてまず進める大学院教育は、日本研究を、従来の枠組みから発展的に飛躍させ、「比較思想史」「比較歴史学」「比較文学」「ジェンダー研究」「芸術諸学」をふくみこむ人文系の学際的な領域にすることである。人文系の学問は、これまで、ともすれば実学的な分野と対比されて、社会への直接的な関わりから隔絶しているという印象があった。しかし近年の国内・国際事情を考へても、学問領域を横断した新しいかたちの人文科学が、現代社会が直面しているさまざまな課題に、思想・文化の面から深く切り込み、その成果を具体的に社会に発信することが求められている。

タイトルにある〈深化〉とは、学問領域内の深い探求と、領域を横断することで得られる深い人間理解を意味し、また〈対話〉は、学問どうしの対話、国と国、文化と文化のあいだの対話を意味している。本プログラムは、本学大学院の「国際日本学」専攻を中心として、「比較社会文化学」専攻と「ジェンダー学際研究」専攻が連携し、現代社会が求める新分野を切り拓く、次世代の女性たちを育成するものである。

そのための具体的な教育プログラムの一つが、「国際的なジョイント教育」であり、国際的な学術経験・視野・人脈を在学時より培うために、海外提携校の教員と、本学および提携校において共同教育を推進することである。初年度の今年度は、韓国の 2 つの大学院との間で、大学院間ジョイント教育が実施された。一つが本学と韓国・淑明女子大学校大学院との間に、もう一つがこの、本学と韓国・同徳女子大学校大学院との間に実施されたものである。

本学と同徳との間のジョイント教育では、「グローバル時代の日本語教育」をテーマに、3 日間にわたる共同授業と、2 日間の韓国日本学会参加がプログラムとして組まれた。日本と韓国の学生だけでなく、今回は本学大学院で学ぶ、中国、台湾の大学院生も加わり、「グローバル時代の日本語教育」をテーマに活発な討論が展開された。短い準備期間の中、両大学の教員と院生とが準備を進め、無事成功をおさめたことは意義深いことであると言わざるを得ない。

お茶の水女子大学大学院人間文化研究科国際日本学専攻
比較日本学研究センター長

森 山 新

2. スケジュール

本学と同徳との間のジョイント教育では、「グローバル時代の日本語教育」をテーマに、3日間にわたる共同授業と、2日間の韓国日本学会参加がプログラムとして組まれた。今回のテーマは、グローバル時代を迎え、日本語教育のあるべき姿を考えるためには、まずもってこれまでの日本語教育をふり返り、過去と現在を反省することが必要であり、それなくして日本語教育がこれからのグローバル化に貢献することはできないという認識を背景としている。そのようなテーマで開催されたため、今回は日本と韓国の学生だけでなく、日本語教育のさかんな中国、台湾の本学大学院生も加わり、活発な討論が展開された。

2月6日(月)、日本側一行は韓国へ向け出国した。午後にホテルについた後、夕食を囲みながらジョイント授業についての打ち合わせを行った。

2月7日(火)から9日(木)までの3日間は、相手校、同徳女子大学校のマルチメディア言語教育センターにおいて、「グローバル時代の日本語教育」というテーマでのジョイント授業が開催された。

2月7日ジョイント授業1日目は、同徳女子大学校大学院生の森伊作さんを司会に、まず、本プログラムを企画したお茶の水女子大学の森山新先生より、本プロジェクトの趣旨説明があった。そのあと、同徳女子大学校教授、李徳奉先生が「交流型日本語教育のためのリソースとリテラシー」という講義を行った。

午後には、同徳側の発表と質疑応答、総合討論があった。発表者は以下の通りである。

<研究発表>

「テグ国際理解教育センター実践報告」(同徳女子大学校・大学院 倉持香)

「交流における日本語教育の可能性」(同徳女子大学校・大学院 黄圭仙)

「教育理念について」(同徳女子大学校・大学院 佐野澄子)

「交流と対日観」(同徳女子大学校・大学院 磐村文乃)

授業後、近くの韓国料理店で歓迎夕食会が行われ、親睦の場が持たれた。

ジョイント授業2日目の2月8日は、お茶の水女子大学・大学院生の高橋薫さんの司会で行われ、午前中には、お茶の水女子大学・助教授の森山新先生が「グローバル時代の日本語教育」と題し、本年度より本学に開設された「グローバル文化学環」の試みなども含めて講義を行った。

午後には、お茶の水女子大学の大学院生らにより、以下のような研究発表があり、その後、全体でグローバル時代に求められる日本語教育とはどのようなものかについて活発な議論が行われた。

<研究発表>

「日本語に関わる経験によって韓国人学習者の認識はどのように変わるか—韓国人留学生に対するインタビュー調査から—」(お茶の水女子大学・大学院 河先俊子)

「台湾における日本語教育の過去と未来」(お茶の水女子大学・大学院 孫愛維・張瑜珊・林美琪)

「中国における日本語教育の現在と未来」(お茶の水女子大学・大学院 王冲・文鐘蓮)

ジョイント授業3日目の2月9日は、午前中、「韓国大学生の対日観と学習動機の変化」と題し、同徳女子大学校・助教授の奥山洋子先生から講義があった。その後、同徳女子大学校総長を表敬訪問した。孫総長の表敬訪問は1年前の協定締結時以来のことであった。

午後は京畿道にある従軍慰安婦の施設、「ナナムの家」を訪問し、ビデオ視聴、博物館見学、かつて従軍慰安婦であったあるハルモニの講演などを通じ、過去の日本語教育の一面をふり返った。

その夜はソウルの文化の街仁寺洞に行き、本学・同徳の参加者が一同に会し夕食会の場が持たれた。

2月10日(金)、11日(土)の2日間は、韓国で日本学研究を行う「韓国日本学会」の第72回学術大会(会場：慶熙大学校)に参加した。参加者の何名かは研究発表も行った。

その夜には自由時間を持ち、その夜反省会を行い、今回の企画をしめくくった。

会場 同徳女子大学校マルチメディア言語教育センター

月日	内容
2/6(月)	出国 共同授業の打ち合わせ
2/7(火)	<p>ジョイント授業1日目 (司会 同徳女子大学校・大学院 森伊作)</p> <p><午前></p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別講義① 「交流型日本語教育のためのリソースとリテラシー」(同徳女子大学校・教授 李徳奉) 質疑応答・討論 <p><午後></p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究発表 「テグ国際理解教育センター実践報告」(同徳女子大学校・大学院 倉持香) 「交流における日本語教育の可能性」(同徳女子大学校・大学院 黄圭仙) 「教育理念について」(同徳女子大学校・大学院 佐野澄子) 「交流と対日観」(同徳女子大学校・大学院 磐村文乃) ・総合討論 ・歓迎夕食会
2/8(水)	<p>ジョイント授業2日目 (司会 お茶の水女子大学・大学院 高橋薫)</p> <p><午前></p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別講義② 「グローバル時代の日本語教育」(お茶の水女子大学・助教授 森山新) 質疑応答・討論 <p><午後></p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究発表 「韓国における日本語教育の過去と未来」(お茶の水女子大学・大学院 河先俊子) 「台湾における日本語教育の過去と未来」 (お茶の水女子大学・大学院 孫愛維・張瑜珊・林美琪) 「中国における日本語教育の現在と未来」(お茶の水女子大学・大学院 王冲・文鐘蓮) ・総合討論
2/9(木)	<p>ジョイント授業3日目</p> <p><午前></p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別講義③ 「韓国大学生の対日観と学習動機の変化」(同徳女子大学校・助教授 奥山洋子) 質疑応答・討論 ・同徳女子大学校総長表敬訪問 <p><午後></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ナムムの家」(韓国・京畿道)訪問(ビデオ視聴、博物館見学、講演) ・夕食会
2/10(金)	・韓国日本学会第72回学術大会参加・発表(第1日目) (慶熙大学校)
2/11(土)	・韓国日本学会第72回学術大会参加・発表(第2日目) (慶熙大学校) ・反省会
2/12(日)	・自由時間 ・帰国の途へ

3. 参加者

参加者は日本側7名（教員1名、大学院生6名）、韓国側16名（教員2名、大学院生14名）のほか、韓国や日本で日本語教育に携わる本学卒業生4名などが加わり、計27名で実施された。

日本側参加者（お茶の水女子大学大学院人間文化研究科）

氏名	所属	国籍
森山 新	博士後期・国際日本学専攻助教授	日本
高橋 薫	博士後期・国際日本学専攻在学	日本
王 冲	博士後期・国際日本学専攻在学	中国
林 美琪	博士後期・国際日本学専攻在学	台湾
文 鐘蓮	博士後期・比較社会文化学専攻在学、江戸川大学非常勤講師他	中国
張 瑜珊	博士後期・国際日本学専攻在学	台湾
孫 愛維	博士後期・国際日本学専攻在学	台湾
河先俊子	博士後期・国際日本学専攻単位修得退学、フェリス女学院大学専任講師	日本
徳間晴美	博士前期・言語文化学専攻卒業、韓国外国語大学校専任講師	日本
岩井朝乃	博士前期・言語文化学専攻卒業、漢陽女子大学専任講師	日本
曹 英南	博士後期・国際日本学専攻卒業、全南大学校非常勤講師	韓国

注) 韓国・日本からの自由参加者4名も含む

韓国側参加者（同徳女子大学校大学院）

氏名	所属	国籍
李 徳奉	日語日文学科・教授	韓国
奥山洋子	日語日文学科・助教授	韓国
倉持 香	日語日文学科博士課程在学、テグ市国際理解教育センター講師	日本
水口里香	日語日文学科博士課程在学、聖潔大学校専任講師	日本
磐村文乃	日語日文学科博士課程在学、中国人民大学外国語学院専任講師	日本
佐野澄子	日語日文学科修士課程在学、柳韓大学時間講師	日本
森 伊作	日語日文学科修士課程在学、仁徳大学専任講師	日本
李 英美	日語日文学科修士課程卒業、同徳女子大学校薬学科助手	韓国
張 恵貞	日語日文学科修士課程在学、サミサ日本語学院院長	韓国
黄 圭仙	日語日文学科博士課程在学、同徳女子大学非常勤講師	韓国
金 世恩	日語日文学科博士課程在学、鮮文大学校 非常勤講師	韓国
鄭 在娟	日語日文学科博士課程在学、韓国外国語大学非常勤講師	韓国
金 璇姫	日語日文学科博士課程在学、鮮文大学校 非常勤講師	韓国
申 恩淨	日語日文学科博士課程在学、同徳女子大学非常勤講師	韓国
金 賢熙	日語日文学科博士課程在学、韓国技術教育大学非常勤講師	韓国
張 榮花	日語日文学科修士課程在学	韓国